

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100184		
法人名	(株)三城ケアサービス		
事業所名	グループホーム ダンデライオン		
所在地	岐阜県大垣市赤花町1丁目68番地1		
自己評価作成日	平成23年12月8日	評価結果市町村受理日	平成24年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番		
訪問調査日	平成24年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の心に寄り添うケアを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の気持ちを大切に管理者や職員は、相手のことをより深く考え、どうすれば不安を取り除き、笑顔で生活してもらえるかを話し合っている。利用者の性格や生活歴を考慮した言葉遣いや声かけをし、仕事をすると落ち着く利用者には草むしりを一緒に行ない、手作業のできる人には折り紙や新聞を折ってもらっている。また、俳句が好きな利用者を作った句を職員が書き留めるなど一人ひとりの思いや能力を活かしたきめ細かいケアを心がけている。設立間もないため、管理者・職員は意見を交わしながら「より良い事業所を作り上げるのだ」という意気込みを持ち、地域の人たちに理解や関心を持ってもらえる努力をしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各ユニットのわかりやすい場所に掲示し、スタッフが理念の共有を図り、ケアに反映できるよう心がけている。	事業所設立時に全員で話し合い作りあげた。職員は「想い合い、認め合い、支え合い」の理念を実践するため、自分中心にならないよう相手の気持ちを大切に、より深く心がけながら日々のケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時などに地域の方々や挨拶を交わし、地域の方との関わりをもつ努力を行っている。	設立間もないため、まず自治会長に働きかけ理解を得ることに努めている。職員も散歩時に挨拶し介護の相談を受けるなど、地域に溶け込む努力をしているが、交流するまでに至っていない。	職員全員で話し合い、地域行事への参加や、事業所行事の案内など様々な方法を試みて、地域住民と日常的に交流し、積極的につながりを築くことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1度の運営推進会議で自治会長様やご家族に向けて、認知症の方たちの独特の世界観や病状などをテーマにお話する機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様の状況、活動内容についての報告を行い、ご家族様との意見交流の場として参加していただいている。また、意見がケアに反映できるよう、できるだけ質疑応答や意見交流の時間に重点をおいている。	地域住民や家族に認知症や事業所を理解してもらうことから始めている。災害時の避難方法や地域の人との関わり方の意見が出されるようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で、地域包括支援センターの方に参加していただき、現状報告等をお伝えしながら協力関係が築けるよう努めている。	市町村から生活保護や困難事例など相談があり、事業所としてできることを伝え相互に訪問し協力関係が築けるよう努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今までに身体拘束をして事例はないが、マニュアルに基づき、禁止の対象となる行為を職員が理解し、ケアに努めている。またユニットの扉や玄関を開放し、利用者が自由に行き来できる状況で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は鍵をかけずユニット内も自由に行き来できる。自宅に帰りたいという人には一緒に散歩したり、じっくり話を聞いて対応するなど、拘束する事はない。しかし、研修会の参加や勉強会を開く事がなく、全職員の身体拘束に関する理解が徹底されていない。	研修会への参加や勉強会を開催するなど全職員が禁止の対象となる具体的な行為や弊害を正しく理解し、ケアに取り組むことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議等で、具体的にどのような行為が虐待につながるのかなど、職員同士で意見を出し合い互いに確認しあうことで、知識を深める機会を確保し、ケアに取り組んでいる。		

グループホーム ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回の会議で資料を配布して制度の説明をすることで制度に対する知識を深め、意識の向上を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問い合わせ、見学、契約時にじっくりと時間をかけて、施設の様子やサービス内容、料金等について詳しく説明し、理解・納得していただけるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に2か月に1度の運営推進会議に参加していただき、質疑応答や意見交流の時間を設け、それらをケアや運営に反映させる努力をしている。	職員は家族等の訪問時に話しやすい雰囲気を作り、意見を聞いている。リビングが狭いという意見を受け、机を買い替え、配置を工夫してゆったりとした空間づくりをするなどケアに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者が職員に声をかけて意見を聞き、職員みんなで作り上げる施設になるよう努力している。	代表者や管理者は職員からも意見を聞き、色々試しながら良い事業所を作り上げようという思いがある。職員から提案があり、常勤とパート、経験者と新人のバランスを考えた勤務体制に変えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が適度に施設に出向き、雑談ベースではあるが個々の職員の勤務状況や思いを聞き取り、いつでも相談に対応できる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	さまざまな研修に参加できる機会を確保し、職員の意見を聞いて希望に合った研修に参加できるよう心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1度行われるグルマネ・タキマネ・しゃべり場に参加することで、同業者との交流の機会を設け、意見交流や情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当施設へ入所され1日でも早く施設に慣れていただき、安心した暮らしが送れるよう、職員が利用者本人に寄り添いながら、気持ちをくみとる努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約時に限らず、ご家族が不安に思っていることや要望をいつでも気軽に相談していただけるよう、職員の声かけなどにより良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に利用者やご家族の思いや、現状を細かく確認したうえで必要としているサービスを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と安らぎのある生活を共に送る家族として、また人生の大先輩として敬意を持ち、互いに支え合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時や相談時など、ご家族の協力があったこそ本人の安心した生活が成り立つことを丁寧にお伝えし、ご家族と職員で共に利用者を支えていけるよう良好な関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の人間関係や地域の方との関係を把握し、入所前に通っていた美容院へ引き続き通うことや、お茶のみ仲間の方との交流が継続できるよう、支援に努めている。	利用者との会話から馴染みにしていた喫茶店と一緒に探して行ったり、知り合いと外出できるよう努めたり、自宅に帰り家族と過ごすなど、関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の間で、利用者同士の相性や性格について意見を交流し合い、職員がうまく間に入るなど、利用者同士が気持ちよく過ごせるように工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでそのような事例はないが、退所の際には、本人や家族に対し、これからも相談に応じることができる旨をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味や嗜好の調査など、普段のかかわり合いの中で情報収集をし、利用者や家族の希望の把握に努めている。	入居の際、家族の聞き取りで好きな事を聞いたり、利用者との普段の会話や色々なことをする中で、表情やしぐさを見て、職員同士の情報を交換しながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設入所前の生活の様子や環境など、家族、前任ケアマネにお話を聞き、把握できるよう努力している。また利用者本人からも、普段の会話の中で情報収集し、スタッフ間で情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の利用者の様子や職員の気づきを記録し、職員間で情報の共有をして、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の現状とケアの在り方について洗い出し、それぞれの意見が反映したプランができるよう努めている。	利用者や家族の希望を基に医師と相談し職員の意見を取り入れ、三か月毎に介護計画を作成している。何か変化があった時は、状態に応じた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の様子や職員の気づきをケース記録に記入し、申し送りをして情報の共有をしている。また、具体的な生活援助内容を記載し、実践に生かす様努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様帰宅したい、また受診したい等希望があれば家族対応ができないときは、職員が代行し支援している。		

グループホーム ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に関する情報を集め、利用者一人ひとりにあった資源が活用できるよう支援している。また、馴染みの生活が継続できるよう、地域や人との関係継続を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長年の主治医がおられる利用者は、入居後も継続して受診できるよう支援している。また、協力医院との提携により、往診時や急変時に利用者の様子を正確に伝え、指示を仰いでいる。	かかりつけ医の受診を支援し、かかりつけ医が往診することもある。受診は家族同行を基本としているが、職員が付き添うこともある。受診時に日頃の様子を伝え、受診後は家族との情報交換を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師に利用者の体調の変化や気づきを正確に伝え、相談に応じてもらうことで、利用者が安心して診察や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、管理者または相談員が病院へ出向き、医師や看護師に現状をお聞きして、退院後の施設での生活が安心して送れるよう情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームが行う看取りに関する方針を説明し、利用者やご家族にご理解を頂いている。看取りを行う段階において再度説明し理解を頂いた上で出来る限りの支援をしている。また、運営推進会議などを通して地域の方にもご理解いただいている。	医師の指導の下、それぞれの段階毎にその都度家族と話し合い、理解を得て、思いを共有しながら事業所としてできる事を支援している。職員には緊急時の対応の仕方や他の利用者への配慮方法などを話している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より利用者の急変や事故発生に対し、些細な出来事でもヒヤリハットとして報告をし、意識の向上を図っている。応急手当の方法について、ユニット会議で取り上げ、対応できるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を計画するなど職員全員で非常災害時を想定して役割をかくにんしている。また、地域の方に協力していただけるよう、ホームの設備や実態を出来る限り詳しく伝えている。	全職員と利用者が参加し、避難訓練を行いそれぞれの役割を確認している。また、消火器の使い方や居室の確認なども行った。しかし、地域の方の参加や夜間を想定した訓練はなく、災害に備えた備品の準備がない。	早急に食料や飲料水等の備品を準備し、夜間を想定した避難訓練の実施や、地域の人との協力体制を築くことを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者の人格を尊重し、職員が目線を合わせ、柔らかい言葉かけを心掛け、気配りできるよう努めている。	職員は「自分が嫌だと思ふことはしない」ことを第一に考え、トイレや入浴・衣服の着脱の時には羞恥心に配慮している。また、利用者一人ひとりの考えや性格を考慮した言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の隣に座り、利用者が自分の気持ちを話しやすい、雰囲気づくりを心がけている。また、日常生活の色々な場面で、自己決定できるような声かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に利用者本位にて過ごしていただいているが、生活にメリハリをつけるため、体操やレクリエーションの参加も体調を把握しながら促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日起床時より、利用者の好みの洋服を選んで着ていただき、髪の設定などにもこだわりをもっていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中で好みのものをお聞きし、できるだけ好みに沿った食事が提供できるよう努めている。また、食器ふきや下ごしらえなど、個々の力が発揮できる促しをしている。	嗜好調査を行い好みを尋ね、調理専門員が献立を立て調理している。寿司を取ったり外食する事もある。職員は話しかけ介助をしているが、一緒に食事をする事はなく、利用者が準備や片付けをする事も少ない。	利用者と一緒に買い物、準備、調理や後片付け等を行う体制の早期実現が望まれる。また、利用者と一緒に食事をとることも含め楽しい食事時間となるため取り組みを図られたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し、栄養状態が把握できるよう努めている。また、食事の摂取にかかる時間やおかわり等は、本人のペースを優先している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者本人の残存能力が活かせるよう、歯磨きやうがいなどご自分でしていただけるよう促している。また、義歯の取り外しや装着は支援を行っている。		

グループホーム ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に合った支援ができるよう、失禁パンツや、布パンツに変えて支援している。また、尿意がない方もトイレ誘導にてトイレでの排泄を試みている。	排泄パターンや習慣を把握し、声かけを工夫しトイレ誘導することで、排泄の自立に向け支援している。以前おむつを使用していた利用者が、パンツやパット使用に変わったケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天、ヨーグルトなどを取り入れ、食事内容やおやつを工夫し、自然排便を促している。また、皆さんにラジオ体操やリハビリ体操に参加していただき運動不足が解消できるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けの際、必ず本人の体調や意思を確認して午前も午後も入浴していただけよう努めている。利用者毎に湯を入れ替え、清潔な湯で入浴を楽しんでいただけるようにしている。	いつでも入浴ができ、自分で湯を張り、職員見守りにより入浴する利用者もいる。重度の人は職員二人で介助している。入浴を嫌がる人には声かけの工夫や時間をずらすなど、気持ち良く入れる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠していただくため、昼間の活動を促し、また、不眠傾向の方には夜間の入眠時間は無理強せず、できるだけ個々に合わせて入眠できるよう話を聞くなどの対応をして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の担当者が中心となり、ケース記録ファイルに薬情をとじ、薬の情報を共有し合い、症状の変化は記録に残して職員が確認できるよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書や俳句、散歩など利用者が自分らしく暮らせるように、支援している。また、一人ひとりの能力に合わせ、食器ふきや掃除など職員が促して参加していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日にはお散歩に出て、気分転換を図っていただいている。また、月に数回ご自宅で過ごされる利用者の送迎を行うなど、できるだけ本人の希望に添えるよう支援している。	散歩や喫茶店に出かけている。みんなで菊人形展を見に出かけたこともある。家族の協力を得て自宅で過ごされる方もいる。今後も色々な計画を立て外出の機会を増やすことを考えている。	

グループホーム ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合いながら、利用者の希望や能力に応じて、買い物の時などに本人が支払う機会を持てるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族に連絡したいと言われるときは、職員がダイヤルし直接お話ししていただいている。家族からの手紙に対し、本人がお返事をかけるようにハガキを準備して促し、やり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中主に利用者が過ごされるリビングに、利用者と職員の共同制作した作品を飾り、季節感のある空間づくりに努めている。また、お天気の良い日には外で喫茶ができるよう、テラスにテーブルと椅子を設置し利用していただいている。	主に過ごすリビングは日当たりや風通しがよく明るい。扇子や花餅など職員や利用者が作成した正月飾り、書初めを飾り、季節感があふれている。また、乾燥防止に加湿器を使用し居心地良い空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日々の生活の中で、利用者同士の関わり合いなどを把握し、リビングでの食事の席やソファの配置などに配慮して、居心地の良い空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で使われる家具や用品は、できるだけ使い慣れた馴染みのものを持参していただくよう家族にも促し、本人が安心して生活できる居室になるよう配慮している。	馴染みの物を持参してもらうよう依頼している。和室を好む人には畳を敷いている。馴染みの筆筒やテレビを持ち込み、家族の写真を飾るなど個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な見守りができるよう、ベッド柵に鈴をつけたり、利用者によっては畳対応にして転倒事故を防ぐなど、安全を心掛けた環境整備を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100184		
法人名	(株)三城ケアサービス		
事業所名	グループホーム ダンデライオン		
所在地	岐阜県大垣市赤花町1丁目68番地1		
自己評価作成日	平成23年12月8日	評価結果市町村受理日	平成24年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をユニットのわかりやすい場所に掲示し、スタッフが理念の共有を図り、常に念頭におくことでケアに反映できるよう心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時などに地域の方々と挨拶を交わし、地域の方との関わりをもつ努力を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1度の運営推進会議で自治会長様やご家族に向けて、認知症の方たちの独特の世界観や病状などをテーマにお話する機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様の状況、活動内容についての報告を行い、ご家族様との意見交流の場として参加していただいている。また、意見がケアに反映できるよう、できるだけ質疑応答や意見交流の時間に重点をおいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で、地域包括支援センターの方に参加していただき、現状報告等をしながらか協力関係が築けるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今までに身体拘束をして事例はないが、マニュアルに基づき、禁止の対象となる行為を職員が理解し、ケアに努めている。またユニットの扉や玄関を開放し、利用者が自由に行き来できる状況で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議等で、具体的にどのような行為が虐待につながるのかなど、職員同士で意見を出し合い互いに確認しあうことで、知識を深める機会を確保し、ケアに取り組んでいる。		

グループホーム ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回の会議で資料を配布し、制度の説明をすることで制度に対する知識を深め、意識の向上を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問い合わせ、見学、契約時にじっくりと時間をかけて、施設の様子やサービス内容、料金等について詳しく説明し、理解・納得していただけるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に2か月に1度の運営推進会議に参加していただき、質疑応答や意見交流の時間を設け、それらをケアや運営に反映させる努力をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者が職員に声をかけて意見を聞き、職員みんなで作り上げる施設になるよう努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が適度に施設に出向き、雑談ベースではあるが個々の職員の勤務状況や思いを聞き取り、いつでも相談に対応できる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	さまざまな研修に参加できる機会を確保し、職員の意見を聞いて希望に合った研修に参加できるよう心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1度行われるグルマネ・タキマネ・しゃべり場に参加することで、同業者との交流の機会を設け、意見交流や情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当施設へ入所され1日でも早く施設に慣れていただき、安心した暮らしが送れるよう、職員が利用者本人に寄り添いながら、気持ちをくみとる努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約時に限らず、ご家族が不安に思っていることや要望をいつでも気軽に相談していただけるよう、職員の声かけなどにより良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に利用者やご家族の思いや、現状を細かく確認したうえで必要としているサービスを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と安らぎのある生活を共に送る家族として、また人生の大先輩として敬意を持ち、互いに支え合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時や相談時など、ご家族の協力があってこそ本人の安心した生活が成り立つことを丁寧にお伝えし、ご家族と職員で共に利用者を支えていけるよう良好な関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の人間関係や地域の方との関係を把握し、入所前に通っていた美容院へ引き続き通うことや、お茶のみ仲間の方との交流が継続できるよう、支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の間で、利用者同士の相性や性格について意見を交流し合い、職員がうまく間に入るなど、利用者同士が気持ちよく過ごせるように工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでそのような事例はないが、退所の際には、本人や家族に対し、これからも相談に応じることができる旨をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味や嗜好の調査など、普段のかかわり合いの中で情報収集をし、利用者や家族の希望の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設入所前の生活の様子や環境など、家族、前任ケアマネにお話を聞き、把握できるよう努力している。また利用者本人からも、普段の会話の中で情報収集し、スタッフ間で情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の利用者の様子や職員の気づきを記録し、職員間で情報の共有をして、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の現状とケアの在り方について洗い出し、それぞれの意見が反映したプランができるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の様子や職員の気づきをケース記録に記入し、申し送りをして情報の共有をしている。また、具体的な生活援助内容を記載し、実践に生かす様努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様帰宅したい、また受診したい等希望があれば家族対応ができないときは、職員が代行し支援している。		

グループホーム ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に関する情報を集め、利用者一人ひとりにあった資源が活用できるよう支援している。また、馴染みの生活が継続できるよう、地域や人との関係継続を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長年の主治医がおられる利用者は、入居後も継続して受診できるよう支援している。また、協力医院との提携により、往診時や急変時に利用者の様子を正確に伝え、指示を仰いでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師に利用者の体調の変化や気づきを正確に伝え、相談に応じてもらうことで、利用者が安心して診察や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、管理者または相談員が病院へ出向き、医師や看護師に現状をお聞きして、退院後の施設での生活が安心して送れるよう情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームが行う看取りに関する方針を説明し、利用者やご家族にご理解を頂いている。看取りを行う段階において再度説明し理解を頂いた上で出来る限りの支援をしている。また、運営推進会議などを通して地域の方にもご理解いただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より利用者の急変や事故発生に対し、些細な出来事でもヒヤリハットとして報告をし、意識の向上を図っている。応急手当の方法について、ユニット会議で取り上げ、対応できるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を計画するなど職員全員で非常災害時を想定して役割をかくにんしている。また、地域の方に協力していただけるよう、ホームの設備や実態を出来る限り詳しく伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者の人格を尊重し、職員が目線を合わせ、柔らかい言葉かけを心掛け、気配りできるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の隣に座り、利用者が自分の気持ちを話しやすい、雰囲気づくりを心がけている。また、日常生活の色々な場面で、自己決定できるような声かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に利用者本位にて過ごしていただいているが、生活にメリハリをつけるため、体操やレクリエーションの参加も体調を把握しながら促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日起床時より、利用者の好みの洋服を選んで着ていただき、髪の設定などにもこだわりをもっていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中で好みのものをお聞きし、できるだけ好みに沿った食事が提供できるよう努めている。また、食器ふきや下ごしらえなど、個々の力が発揮できる促しをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し、栄養状態が把握できるよう努めている。また、食事の摂取にかかる時間やおかわり等は、本人のペースを優先している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者本人の残存能力が活かせるよう、歯磨きやうがいなどご自分でしていただけるよう促している。また、義歯の取り外しや装着は支援を行っている。		

グループホーム ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に合った支援ができるよう、失禁パンツや、布パンツに変えて支援している。また、尿意がない方もトイレ誘導にてトイレでの排泄を試みている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天、ヨーグルトなどを取り入れ、食事内容やおやつを工夫し、自然排便を促している。また、皆さんにラジオ体操やリハビリ体操に参加していただき運動不足が解消できるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けの際、必ず本人の体調や意思を確認して午前も午後も入浴していただけるよう努めている。利用者毎に湯を入れ替え、清潔な湯で入浴を楽しんでいただけるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠していただくため、昼間の活動を促し、また、不眠傾向の方には夜間の入眠時間は無理強いせず、できるだけ個々に合わせて入眠できるよう話を聞くなどの対応をして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の担当者が中心となり、ケース記録ファイルに薬情をとり、薬の情報共有し合い、症状の変化は記録に残して職員が確認できるよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書や俳句、散歩など利用者が自分らしく暮らせるように、支援している。また、一人ひとりの能力に合わせ、食器ふきや掃除など職員が促して参加していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日にはお散歩に出て、気分転換を図っていただいている。また、月に数回ご自宅で過ごされる利用者の送迎を行うなど、できるだけ本人の希望に添えるよう支援している。		

グループホーム ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合いながら、利用者の希望や能力に応じて、買い物の時などに本人が支払う機会を持てるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族に連絡したいと言われるときは、職員がダイヤルし直接お話していただいている。家族からの手紙に対し、本人がお返事をかけるようにハガキを準備して促し、やり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中主に利用者が過ごされるリビングに、利用者と職員の共同制作した作品を飾り、季節感のある空間づくりに努めている。また、お天気の良い日には外で喫茶ができるよう、テラスにテーブルと椅子を設置し利用していただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日々の生活の中で、利用者同士の関わり合いなどを把握し、リビングでの食事の席やソファの配置などに配慮して、居心地の良い空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で使われる家具や用品は、できるだけ使い慣れた馴染みのものを持参していただくよう家族にも促し、本人が安心して生活できる居室になるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な見守りができるよう、ベッド柵に鈴をつけたり、利用者によっては畳対応にして転倒事故を防ぐなど、安全を心掛けた環境整備を行っている。		